

1 気候・風土言語等

(1) 地理

スーダンは、アフリカ大陸の北東部に位置し、7カ国と国境を接しています。その総面積は約188万平方km（日本の約5倍）であり、アルジェリア、コンゴ民主共和国に次いでアフリカ大陸第3位です。西部の山岳地帯に3,000m級の高山もありますが、おおむね標高500m以下の平坦地となっています。地理上最も特徴的なのは、スーダンを南北に貫流するナイル川（全長約6,700km）であり、ウガンダのビクトリア湖に源を発する白ナイル川と、エチオピアのタナ湖に源を発する青ナイル川がハルツームで合流しナイル川本流となり、エジプトを経て地中海に注いでいます。首都ハルツームは、北緯15度36分、東経32度33分、海拔380mにあり、スーダンの中央部で、やや紅海寄りに位置しています。周囲は砂漠で、ナイル川に沿って岸から数百メートルの地域に緑が僅かにあるのみです。東は紅海に面し、港湾都市ポートスーダンがあります。

日本との時差：日本時間からマイナス7時間

(2) 気候

北部スーダンは砂漠性の乾燥気候です。北部の砂漠と紅海沿岸は一年中、日中の気温が38℃を超す炎熱の地ですが、首都ハルツームの気候は季節ごとに多少変化があります。最も暑い季節は3月下旬～6月にかけて、屋外の気温は50℃以上に達することもあります。11～2月にかけては比較的涼しく、年間を通じて最も暑さをしのぎやすい季節です。おおむね次の4つの時期に分かれています。

<4月～6月>

3月下旬から4月にかけて気温は急上昇し、最も暑い季節に入ります。屋外の気温は摂氏50度以上に達することもあり、酷暑期に当たります。この時期にハブーブと呼ばれる砂嵐が吹き荒れるのですが、ハブーブは5、6月に最も多く、7、8月まで続くことがあります。猛烈なハブーブが来襲すると日中でも薄暗くなり、視界が悪くなります。家の戸を全て閉め切っても、細かい砂塵はどこからともなく室内に入り込んできます。年間を通じてハルツームは埃っぽいですが、ハブーブの時期は特に掃除が大変となります。ハブーブの後は雷を伴い雨が降ることが多く、幾分温度が下がり多少過ごしやすくなる時もあります。

<7月～8月>

雨期に当たります。当地の雨は、降るときはスコールのように激しく降りますが、短時間で終わることが多く、ハルツームの年間降雨量（150mm）は東京の10分の1程度です。降雨は9月に入っても見られます。下水道が整備されていないため、雨後は道路が冠水し、通行不能となる箇所が少なくありません。

<9月～10月>

セカンドサマーと呼ばれ晴天が続くが高温の上、比較的湿度が高い時期です。スーダン人の中には5月、6月よりも暑いと不快がる人が多いですが、湿度はそれでも40%

前後です。

<11月～3月>

比較的涼しく、年間を通じて最も暮らしやすい季節ではありますが、日中の最高気温は摂氏30度を超えることが多いです。雨はほとんど降らず、朝方や夜間には肌寒く感じることもあるので、ベスト、セーター、毛布等を持参した方が良いでしょう。空気が乾燥しているので、洗濯物は室内でも数時間で乾きます。

(3) 言語

アラビア語（公用語）及び英語（公用語）

2005年暫定憲法では、アラビア語と英語が中央政府の作業言語とされていますが、スーダンでは、アラビア語が事実上の公用語となっています。イギリス統治時代の名残で、都市部では英語を解する者もいますが、市場（スーク）での買い物を含め、日常生活は英語のみでは不自由を感じることもあります。

(4) 人種・民族・宗教

スーダン全土の人口は約4,280万人（2019年、世銀）。人種はアラブ系、アフリカ系、その他に大別されますが、特に東部には数多くの民族、部族が居住しています。アフリカ系はダルフル地方や南コルドファン州等の南部に集中しています。また、スーダン国内にはエチオピア人や、エリトリア人が難民として居住しています。

宗教は、主にイスラム教徒が国民の大多数を占めていますが、南部にキリスト教や伝統宗教を信奉する非アラブ系やアニミズムの民族グループも存在しています。ハルツーム等の都市部には、コプトを中心とするアラブ系キリスト教徒もいます。スーダンは厳格なイスラム教国であることから、イスラム教を侮辱するような言動等は、厳に慎む必要があります。なお、酒・豚肉は禁止されているので、十分な注意が必要です。また、イスラム教では金曜日が集団礼拝の日とされており、その機会を利用して、政治的スピーチやデモが行われ、それが大規模化、暴徒化する場合があります。その際、モスク等宗教施設やデモ等を狙ったテロや襲撃が行われることもあるので、特に金曜日には不用意に宗教施設等に近付かないようにする必要があります。

(5) マナー

「何時でも友の来訪を拒まない」のがアラブ社会の伝統的な接客態度です。例え約束を取り付けてあっても、ダブルアポイントで他の客がいることも珍しくありません。また、相手の訪問を受ける場合でも、交通機関の混雑、電話回線の不良等を理由に肩すかしを食わされることもあるので、仕事に係わらない往来は、堅苦しく考えず、おおらかな気持ちで気楽に行うのが良いでしょう。手みやげの習慣はありませんが、日本の土産品、菓子等を持参すれば喜ばれことが多いと言えます。昼食後の昼寝時（16時から18時頃まで）は訪問を避けるのが賢明です。親しい仲では出会い時に右手で相手の左肩をポンとたたき、その後握手をします。